

# 被災地雇用「職業間ミスマッチ」拡大の現実

みずほ総合研究所 経済調査部 エコノミスト

風間春香

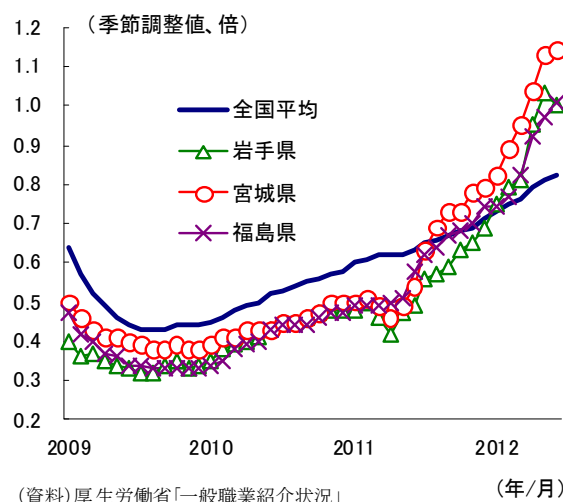
東日本大震災の被災地では、「職業間ミスマッチ」を理由に就職できない求職者が増加した。建設関連業などでは人手不足が常態化する一方、製造業などでは求人不足による未就職が多い。復旧・復興需要に伴う求人増は一時的なものであり、継続的な雇用拡大のためには地域経済を牽引する成長産業を創出していくことが不可欠だ。

## 雇用情勢は上向くが、失業手当終了時に就職できたのはわずか2割

東日本大震災から1年半近くが経過した。この間、岩手・宮城・福島県の被災3県の求人数は、被災地の復旧・復興事業に伴う建設業等の求人増により、震災前と比べて大幅に増加している。有効求人倍率（季節調整値）をみると、震災直後の2011年3月、4月は低下したものの、5月以降は上昇傾向が続き、直近の2012年6月時点では、岩手県が1.00倍、宮城県が1.14倍、福島県が1.01倍と、全国平均（0.82倍）を上回っており、被災地の労働需給が改善していることを明確に示している（図表1）。

ところが求人数が戻った半面、就職件数は低い伸びにとどまっている。求人があっても実際の就職に結びつかないケースが増加している可能性がある。とくに2012年に入ってから、失業手当の支給期間の特別延長措置（震災による離職者を対象に最大120日間、さらに特定の地域を対象に90日間再延長）が終了した被災者も出てきた。6月22日までに失業手当の給付期間が終了した被災3県の14,442人の給付終了時点の状況（「復興庁復興推進委員会（第3回）資料」2012年8月1日）をみると、「就職（または内定）」が2,916人（20.2%）、「求職活動中」が9,677人（67.1%）、「職業訓練受講中」が191人（1.3%）と、震災で職を失った被災者の再就職が思うように進んでいない状況にあることがうかがえる。

図表1：全国と被災3県の有効求人倍率



## 職はあるのに職を決められない「職業間ミスマッチ」が深刻化

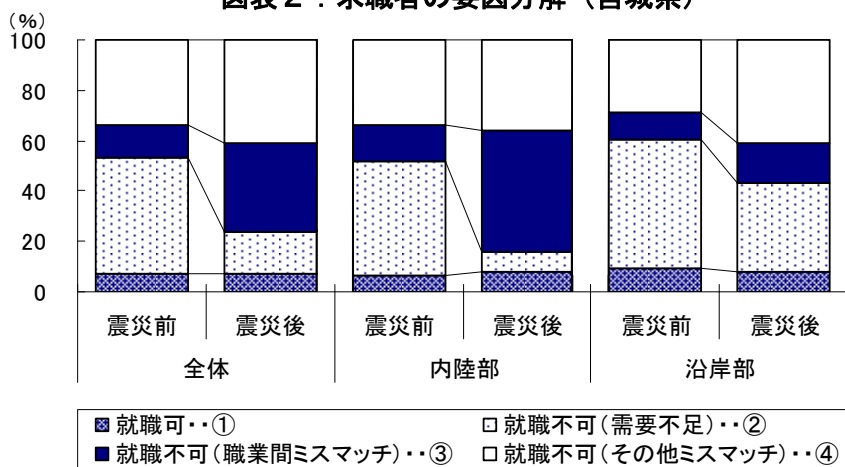
このように被災地では、求人内容と求職者のニーズが合わない、いわゆる「雇用のミスマッチ」が生じているわけだが、なかでも求職者が職種を変更することで未就職が解消できる「職業間のミスマッチ」が拡大している模様である。以下では、職業安定所別・職業別の求人数・求職者数のデータが公表されている宮城県を例に、職業間ミスマッチの現状を確認してみよう。

まず、一定の仮定に基づき、有効求職者数を①就職できた人数、②労働需要（求人）不足により就職できなかった人数、③職業間ミスマッチにより就職できなかった人数、④その他のミスマッチにより就職できなかった人数——の4類型に分解すると、震災後の2011年10～12月期の宮城県の有効求職者数は、①7%、②16%、③36%、④41%の割合となる（図表2）。これらを震災前の2010年の同時期と比較すると、需要不足に起因する②の割合が低下（46%→16%）する一方で、ミスマッチに起因する③や④の割合が上昇（13%→36%、34%→41%）していることがわかる。つまり、宮城県では求職者の40%弱が職業間ミスマッチにより就職できず、そのウエイトは震災前の3倍程度に拡大したことになる。なお、最新のデータを用いて2012年4～6月期における③の割合を試算すると34%であり、足元でもミスマッチの度合いは和らいでいないと考えられる。

次に、宮城県の職業別の求人・求職状況をみると、震災前後（2010年10～12月と2011年10～12月）を通じて、すべての職業で有効求人倍率が上昇しているが、その状況は職業によってバラつきがあること

がわかる（次頁図表3）。例えば、「事務的職業」「販売・営業の職業」「製造の職業」では、震災後も有効求人倍率が1倍を下回る状況（求職超過）が続いているのに対して、「サービスの職業」「医療・福祉関連の職業」「建設・土木関連の職業」では、震災後の有効求人倍率が1倍を上回っており（求人超過）、なかでも「建設・土木関連の職業」は震災前の1倍を下回る状態（0.9）から3.8倍へと急進している。こうした職業による有効求人倍率の差異こそが、職業間ミスマッチの実態を如実に示すものであり、とくに「建設・土木関連の職業」における求人超の度合いの著しい強まりは、これが震災後の被災地で職業間ミスマッチが強まった主因であることを物語っている。

図表2：求職者の要因分解（宮城県）



(注)1. 震災前は2010年10～12月、震災後は2011年10～12月。  
 2. 内陸部は、仙台、古川、大河原、築館、迫、白石、大和。沿岸部は、石巻、塩釜、気仙沼。  
 3. 求職者数の分解方法は、大谷剛（2006）「地域雇用創出の現状に関する研究 第4章 職安における就職率・ミスマッチ・労働需要不足の推移」『労働政策研究報告書 No.65』を参考に、求職者数を以下の4つの要素に分解。  
 ①=就職件数/有効求職者数×100  
 ②=(有効求職者数-有効求人数)/有効求職者数×100、  
 ③=職業間ミスマッチ件数/有効求職者数×100  
 ④=100-(①+②+③)  
 4. 職業間ミスマッチ件数は、以下の方法で計算。  
 職業間ミスマッチ件数=γ×職業間需給ギャップ件数  
 職業間需給ギャップ件数=職業計就職可能件数-∑職業iの就職可能件数  
 職業計就職可能件数=min(職業計有効求人数、職業計有効求職者数)  
 職業iの就職可能件数=min(職業iの有効求人数、職業iの有効求職者数)  
 求職者数が超過している職業から求人数が超過している職業に求職者が移動すれば解消できる未就職を職業間ミスマッチと考える。γは理論的には0から1の値をとるが、ここではγ=1と仮定。これは求職者が希望職業以外の職業に全く移動することがないと仮定していることになるため、ここで試算される職業間ミスマッチ件数は現実よりやや大きい数字となる。

(資料) 宮城県労働局

## 復旧・復興一巡後の継続的な雇用創出ビジョンが不可欠

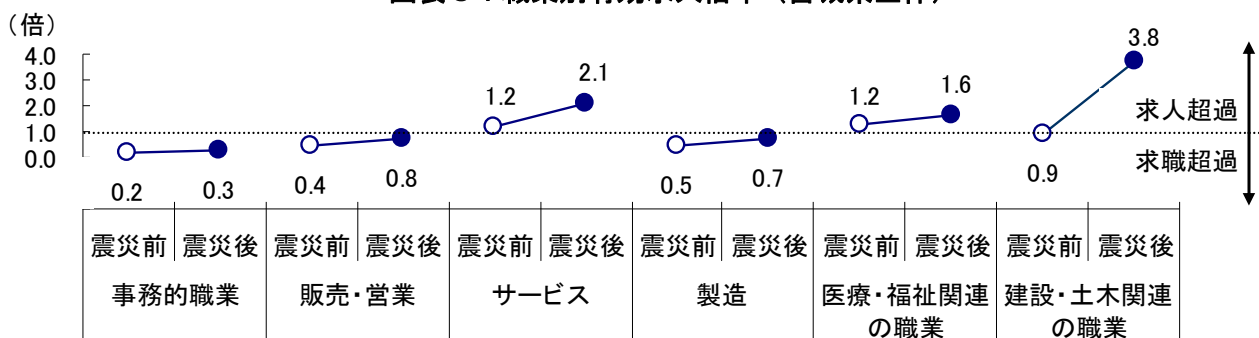
こうした宮城県における職業間ミスマッチの拡大は、データの制約により確認できなかった岩手・福島両被災県でも同様に生じているものと考えられる。

被災地では現在、東日本大震災の復旧・復興事業の執行が本格化するに伴い、建設・土木関連の求人が増えており、政府も建設・土木関連分野での人手不足に対しては、①復興JV制度の創設（従来、地元企業だけに入札を認めていた事業を対象に、被災地域の建設業者が被災地域以外の建設業者と共同企業体（JV）を組むことを認めるもの）や、②工事現場を統括する主任技術者の配置要件緩和——などの対策を講じている。しかしながら、こうした対策は、どちらかといえば広域的に人材を確保するためのものであって、基本的に地元で生じている職業間ミスマッチの緩和や解消につながるものではない。

また、震災後の建設・土木関連の求人増は、復旧・復興が一巡するまでの過渡期に生じる一時的な現象に過ぎないことも事実である。阪神・淡路大震災（1995年1月）のケースを振り返ると、兵庫県の就業者数は震災後の復旧・復興事業に伴って建設関連の雇用が一時的に増加したことから、震災直後の95年度には増加したものの、早くも翌96年度には減少に転じてしまった。復興事業が一巡して建設関連の労働需要が減少し始めた一方で、これに代わる新たな雇用の受け皿となる産業がなかったためである。

こうした阪神・淡路大震災の教訓が示しているのは、インフラなどの復旧・復興事業が一巡した後も継続的に雇用を創出するようリーディング産業や新たな成長産業を育てていくことこそが、被災地における雇用政策を考える上では不可欠ということだろう。東北地方沿岸部は農林水産業や水産加工業のウエイトが高い地域だが、震災前から就業者の高齢化が進み、そもそも求人倍率の低いエリアだった。新たな成長産業（農林水産業のいわゆる「6次産業化」なども含む）が生まれなければ、復旧・復興需要が一巡した後、労働需要が恒常的に不足する地域に戻ってしまうことになりかねない。被災地における持続的な雇用創出のためには、復興後を見据えた戦略的な産業政策を立案するとともに、復興後の産業構造にマッチする人材を育成する対策を講じていくことこそが必要である。（了）

図表3：職業別有効求人倍率（宮城県全体）



(注) 1. 震災前は2010年10～12月、震災後は2011年10～12月。  
 2. サービスの職業：理・美容師、クリーニング工、調理の職業、接客の職業、建物管理の職業、その他のサービス。  
 医療・福祉関連の職業：薬剤師等、医療技術者、社会福祉専門職、ホームヘルパー等。  
 建設・土木関連の職業：建築・土木技術者等、建設機械運転、建設躯体工事、建設の職業、土木の職業。  
 (資料) 宮城県労働局

【関連情報】みずほインサイト「被災地雇用の現状と課題～拡大する職業間のミスマッチ～」（2012年3月30日）

☞ <http://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/insight/jp120330a.pdf>

当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。